

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100560		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループホーム たかまーみの家		
所在地	沖縄県那覇市字大道94-3 4階		
自己評価作成日	令和5年11月26日	評価結果市町村受理日	令和6年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kari=true&JigyosyoCd=4770100560-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和5年 12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、医療法人の特性を活かし訪問診療・訪問看護と迅速に医療との連携を密にしています。利用者様の対応といたしましては、できるだけ家庭に近い環境で共同生活を送り、専門の研修を受けた介護職員と一緒に食事の準備をしたり、洗濯物たたみや掃除等を皆で分担し残存能力をいかし、一人ひとりにふさわしいケアを提供させていただきます。又、地域住民の方々からは、毎週木曜日に古新聞をいただき有効活用しています。今後も地域とのつながりを継続して友好関係を築いて行きます。※現在、アートセラピーは感染拡大防止のため、実施できない状況が続いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念とモットーを作成している。「うちな一方言も理念に入れたい」との職員意見で、理念の一文に「いちやればちようで一」があり、利用者向き合い、寄り添い、傾聴することを大事にしている。日々の支援では、食事は三食とも職員の手作りとなっている。利用者の希望で刺身や寿司、中身汁や沖縄そば等の郷土料理も提供し、朝食もパンや雑炊等、利用者の希望が取り入れられ、利用者は下ごしらえや下膳に参加している。テーブルには季節の花が飾られ、職員も一緒に食事している。急変時や事故発生時の対応マニュアルが整備され、フローチャートも掲示し、職員へ周知を図っている。服薬支援マニュアルに基づいて、薬剤師が一包化した薬を夜勤者が配薬して管理している。与薬時は、利用者本人や他職員へ声掛けし、氏名や薬の名前等の確認を行い、飲み忘れ等の誤薬がない支援が行われている。職員は、薬効や副作用等、薬ファイルで情報を共有して、利用者の様子に変化があった場合には訪問看護師等に相談できる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に職員全体で考えた理念を利用者が輪番制で唱和して全員で声をだして、日々のケアとして提供している。	事業所は、8年前に理念とモットーを作成している。うちな一方も入れたいとの職員意見から、理念の一文に、「いちやりばちようで一、感謝の心」がある。利用者の昼夜の変化や不穏で動き回る等の状況に対し、利用者向き合い、寄り添い、傾聴することを大事に日々の支援に励んでいる。理念作成当時は、利用者家族や地域の子どもたちの来訪もあったが、コロナ禍の影響もあり、見直しを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民とは、日頃から挨拶をし、毎週木曜日に古新聞をいただき、当ホームで有効活用しています。また、消防訓練に参加していただき消火器訓練にも参加し消火器の重さに驚いた様子でした。	長年交流している事業所向かいの床屋さんや近隣住民から古新聞やチラシを頂き、事業所でチラシでゴミ箱作成等で活用している。2、3か月に1回、床屋さんに来訪してもらい、散髪等が行われている。コロナ禍で感染も体験したことから、感染予防対策の1つとして、利用者地域住民との交流や行事参加等は中止や制限を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して事業所の利用者の状況・認知症に関して事例を通して理解して頂いております。又、新型コロナも2類から5類に変わり、今後は近隣地域とのつながりを重点的に推進して行きます。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催しますが、外部の構成員(行政・知見者・地域住民・利用者家族代表等)全員が揃うことはまだ、実現できていません。(感染拡大防止の為)。会議の内容については、職員ミーティングで報告し職員全体で共有している。	運営推進会議は、2か月に1回開催され、記録が保管されている。この1年間は、コロナ禍の影響で職員と利用者だけの会議や行政職員と知見者、管理者による会議開催が行われているが、利用者や利用者家族、地域代表の参加は確認できない。今後は全構成員の参加での会議が望まれる。次回、令和6年2月からは通常の会議開催を予定している。	コロナ禍の影響で全委員の対面参加による会議開催ができなかったことは理解される場所であるが、コロナによる令和5年5月8日、5類感染症へ移行したことを踏まえ、運営推進会議も通常開催が行われるよう工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の介護保険の手続きの際に家族さんと同行したり管理者が直接窓口へ行き説明を受けたりしています。又、DVD(体操)を借りて、当ホームで軽体操をして利用者の健康維持に努めています。	コロナ禍で通常の運営推進会議開催はできていないが、外部委員の行政職員や知見者が参加して会議が行われ、情報交換をし、アドバイスを受けている。行政からは、研修や集団指導等の案内があり、事業所は、入居に関する相談等を必要時に行っている。コロナ感染時は、行政から看護師も来訪し、専用のマスク提供や対応方法等、支援してもらい、拡大することなく最小限の感染に留めることができている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に身体拘束をしないケアについて、家族等に説明し、理解を得ています。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催をしています。身体拘束の事例等について話し合い、取り組み報告をまとめ議事録を作成しています。	身体拘束廃止に向けて五つの方針があり、その中に、「トップが決意し、施設等が一丸となって取り組む」と明示している。身体拘束適正化検討委員会を職員と訪問看護が参加して定期的に行われ、他職員にも会議録を確認してもらう等で周知しており、運営推進会議において、検討委員会の会議録をもとに話し合っている。身体拘束に関する勉強会を年3回実施し、身体拘束のない支援が行われている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底として、沖縄県認知症グループホーム協会の研修「高齢者虐待防止に向けて」を参照し、内部研修を実施しています。又、研修に参加した職員は振り返りとして記録を作成し報告書作成しています。	虐待の防止に関する指針としてマニュアルを作成しており、高齢者虐待防止委員会名簿も作成されている。高齢者虐待防止の研修は、虐待の芽チェックリスト活用例や集団指導における虐待に関する資料をもとに行っている。事業所のモットーの1つに「な—な—ゼロ」があり、日々の支援で、利用者への言葉使いや口調等、不適切な言動にならないよう気配りしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沖縄県権利擁護推進委員養成研修資料を参照し学ぶ機会を設けています。不適切なケアがあった場合はミーティングで共有し、課題解決に向けて全職員で考えるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、利用者や家族等の不安や疑問を尋ねる。又、重要事項の十分な説明を行い納得した上で契約を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で利用者より「家に帰りたい」「嫁に髪を切ってほしい」「栄町」に行きたい等の意向をふまえて家族へ伝えることで、嫁が1階の地域交流室で髪をカットしにきます。	事業所近隣の商店街を利用していた利用者から「栄町に行きたい」との意向があり、出かけた時、商店街で経営していた八百屋から「この方を見たことがある」と言われたことがある。コロナ禍で面会を制限していたこともあるが、家族から「会いたい」との要望を受け、感染状況を確認の上、15分程、面会してもらい、誕生会で利用者の好きな花とたい焼きを持参してもらう等できる範囲で対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見の反映は、毎朝の夜勤者より日勤者への申し送り、日勤者から夜勤者への申し送り時に情報を共有を行っています。利用者の状況把握はもとより必要な物品等、日常的に意見や要望があれば取り入れています。又、日々の業務ノートにも意見等を記載することで改善しています。	職員は、朝夕の申し送り時、利用者情報を確認し合うとともに、運営に関する話し合いをし、業務ノートに記入する等、意見や提案を行いやすい環境にある。毎日の調理や掃除等に必要なお鍋やモップ等の購入依頼、勤務変更等に対応している。夜勤手当増や昇給等の要望については、管理者から法人へ職員の要望を伝えている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は認知症介護基礎研修や実務者研修を受講しています。入職時には健康診断の提出、年1回(夜勤者は2回)の健康診断を実施しています。勤務表作成は、時間帯や休み希望を聞き作成しています。各個人から話を伺い現状を知り職場環境・条件の整備に努めています。	就業規則が整備され、ハラスメントに関することや健康診断の実施が記載されている。ハラスメント防止及び対応に関する指針、基本方針、マニュアルを作成し、就業規則に罰則規定が明記され、職員にも周知している。働きやすい環境の1つとして、職員同志で指摘し合い、話し合えることを大切にしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	沖縄県グループホーム協会の会員なので、年間の研修情報が入ってきますので、状況に合わせて研修に参加できる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム協会の会員なので各研修に参加してネットワークづくりや勉強会等でサービスの質を向上させています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、ご家族様やご本人、ケアマネや相談員より情報収集を行い、利用者やご家族様の困っていることや要望等の聞き取りを行っています。入居後も本人の安心を確保するため寄り添い安心して過ごせるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入前より不安や要望があれば、いつでも相談できる体制づくりをしていることを事前に説明し信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入職時は、環境も変わるので、ご家族・本人も不安、心配ごとがあるので良く話を聞き良い関係づくりに努めて行きます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者様と一緒にできることは職員も側に寄り添い、残存機能を活かした関係づくりに努めて行きます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナも2類から5類に変更され、面会の可否を適宜発信し、面会できる場合は面会していただき本人と家族を支えあう関係づくりに努めて行きます。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた市場の周辺をドライブしたり、市場をちょこっと散歩すると、市場の方から声を掛けられるがご本人がわからない状況が続くが、自分が住んでいたアパートは、しっかり覚えていました。今後は、関係継続支援は、難しい状況ではあるが支援の工夫をしていきます。	コロナ禍の影響もあり、人との交流や馴染みの地域への外出も制限されている中、少人数ではあるが希望を受け、馴染みの地域へドライブに出かける支援やお盆に以前住んでいた住居の仏壇に手を合わせに出かける利用者もいる。毎年、県外在住の身内から手紙と一緒に果物が届く利用者もおり、それぞれの関係継続を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の性格を把握して、一人ひとりが孤立することなく、食堂兼ホールでの座席の配置は特に気を配り口論しトラブルがないように努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、次につなげるように家族の相談できる支援づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を聞いています。「お刺身が食べたい、お寿司が食べたい」との希望があれば、新鮮度を確認し、誕生日や行事等に提供したり、「家族に会いたい」との思いには、感染状況を鑑みながら地域交流室での対面面会の実現につなげています。	入居時に利用者や家族から思いや意向を確認する他、日頃は居室担当者を中心に把握が行われている。担当者は、利用者が好んで使用する入浴剤や身の回りの物品等について、家族へ連絡調整するとともに、居室でゆっくり過ごす時間を作り、何気ない会話の中から、利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事業所から情報提供を依頼し把握し、さらに実態調査においては、本人及び家族から話を傾聴し信頼関係づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のラジオ体操時に、表情確認及び腕の上げ具合等を観察しています。又、状態に合わせて居室での休憩を行っています。個々の状態の把握は介護記録だけでなく、職員間で情報提供するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議は、新型コロナ感染状況に合わせて本人同席のもと、家族、関係者と直接、又は、電話にて実施しています。介護計画は長期目標1年、短期目標は6ヶ月、モニタリングは3ヶ月に1回実施し状態変化時等は随時見直している。	介護計画は、長期目標1年、短期目標6か月とし、モニタリングを3か月ごとに実施し、記録されている。本人意向の「そろばんや足し算、引き算を楽しむ」を踏まえ、短期目標の「楽しみがあり、刺激ある生活を送れる」に対して、軽度のレクリエーションや体操及び好きな計算等に参加を促し、一緒に楽しめるよう支援している。モニタリングの結果、目標の見直しを行っている介護計画もあり、現状に即して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り時に、日々の変化を個人記録へ記入して職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・退院時に家族さん同行が厳しい場合は職員同行し、ご家族の負担軽減に努めている。要望、意見、その時のニーズについて職員間でも話し合い迅速に検討し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナも2類から5類に変更され、まだ、地域資源を活用できてない状況ではあるが、今後は楽しく安全に日常生活ができるよう支援して行きます。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は法人内の「メディカルプラザ大道中央病院」の訪問診療により適切な医療を受けている。かかりつけ医を継続している入居者様へは受診の際、情報提供書を渡し、主治医の返答を家族よりいただいております。	かかりつけ医の受診支援については、内科は協力医の訪問診療を利用している利用者が7名いる。訪問看護は利用者全員が利用している。精神科は入居前からのかかりつけ医を2名が利用している。内科以外の他科受診は家族対応となっている。受診時の情報は情報提供書を渡し、受診後の情報は、返書で確認、または家族から聞き取りしている。歯科の訪問診療利用者が1人いる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により日々の状態や健康管理を行い異常や変化がある場合は訪問看護師に伝えて、報告・連絡・相談を行い情報共有や助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、医療機関の相談員と入院前の経過や情報提供、退院前等のカンファレンスへ参加して情報交換や相談に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、利用者や家族に「看取り及び重度化に関する方針」を丁寧に説明し、利用者の急変や状態変化の際は速やかに協力機関を通じて、適切な施設や医療機関への紹介を行っている。退院後のケアについても医療機関及び地域連携室関係者共に支援に取り組んでいます。	重度化した場合や終末期については、事業所での対応が難しいことを入居時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、看取りについてもしない方針となっていることを説明している。重度化した場合は利用者、家族の意思を確認して法人の病院や施設と調整し、入院や入所の対応をしている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急ファイルを作成し、急変時にはそれに従い対応できるように実践力を身につけています。又、訪問診療・訪問看護による応急手当や初期対応は医療専門職より指示アドバイス等を受けています。	急変時や事故発生時の対応マニュアルが整備され、フローチャートを事務所に掲示し、職員へ周知を図っている。今年度は2件の転倒があり、事故報告書を作成するとともに第一発見者、管理者を中心に他の介護職員も一緒に話し合い、再発防止に努め、申し送り周知を図っている。マニュアルの定期的な見直しに期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に行っている。	昼夜を想定した総合訓練を7月と10月に実施しました。複合施設の為、3事業所合同で訓練を行っています。又、1階の駐車場で水消火器による消火訓練も実施しています。又、内部の安全感染委員会への参加と、提供される資料、マニュアルにて事業所内で勉強会を行っています。	災害対策は7月と10月の2回、昼夜を想定し、複合施設全体で実施し、設備の保守点検業者や地域の方が毎回参加している。消防設備点検も定期的に行われている。備蓄は水や食料等が職員も含め3日分確保され、薬やラジオ、紙おむつ等も用意している。業務継続計画は、沖縄県GH協会の資料を参考に作成中である。感染症対策は法人の委員会へ参加し、研修も7月に実施されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員による感情的な言葉使いスピーチロックなど気が付いたら職員間でも注意しあえる良好な関係性である。特に排泄に関しては、一人ひとりの人格を尊重して職員間で言葉の工夫を行っています。	高齢者の尊厳保持について、「なーなーゼロ」を目指しスピーチロックについて研修を実施している。トイレのドアは必ず閉める、入り口がカーテンとなっているトイレは外から見えないように中に衝立を設置する等、プライバシーに配慮されている。入浴は同性介助を原則とするが、できない場合は事前に了解をもらうようにしている。個人情報保護方針や利用目的は玄関に掲示されている。個人台帳はすりガラスの鍵のかかるキャビネットで保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定ができるように、側に寄り添い傾聴し自己決定ができるように環境作りに努めます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態を観察しながら利用者の意向を尊重し、一人ひとりのペースにあわせて希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に関しては、特にお嫁さんに希望する方がいてカットをしています。又、食後の口腔ケアが終わったあと口紅をする方がいます。入浴に関しても利用者の意向を確認しながら更衣のおしゃれができるよう支援しています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも全量たべられる方が多く、2年ほど前から朝食を和食からパンに変えたことで更に食事が楽しみになり喜んでもらってます。又、食事の準備、人参・ジャガイモ等の皮むき、食後は、皿洗い・お膳拭き等を手伝ってもらって残存機能を活かしています。※感染拡大防止の為、食前食後の手指消毒及びテーブル消毒は徹底し行っています。	食事は三食とも職員の手作りとなっている。朝食はパンとなっているが、雑炊と一緒に提供するときもある。利用者は、もやしのヒゲ取り、ジャガイモ等の皮むき等下ごしらえや下膳を行なっている。利用者の希望で刺身やすしなども提供されている。あしていびちや中身汁、沖縄そばなどの郷土料理も提供されている。テーブルには季節の花が飾られ、職員も一緒に会話をしながら食事をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保出来るようチェックし職員全員で把握できるように記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけながら口腔ケアを行っています。口腔状態にトラブルがあれば訪問歯科を利用しています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレに案内することで、日中はトイレでの排泄を支援しています。排泄の失敗には、慌てずにさりげなくトイレへ案内し清潔保持に努めています。便秘の利用者には、協力医の指示に従い、処方された便秘薬を服用させ、改善につなげています。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいます。	排泄の支援は排泄管理表で個々のリズムを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。職員はトイレの横で見守りを行うなどの支援がされている。日中のトイレ使用は8人おり、そのうち、布パンツ使用が1人となっている。夜間はトイレ誘導が4人、ポータブル使用が4人、おむつ使用が1人となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分チェックリストにてこまめに水分補給を行い朝食には定期的にヤクルト販売業者から購入しているヤクルトやヨーグルト等の乳製品を取り入れ工夫して個々に応じた対応をしています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2~3回で午前中に入浴支援を行っています。同性介助を基本としているが本人の同意を得て異姓が介助する場合は、羞恥心に配慮して支援しています。時には気分を変えてリラックスして入浴できるように浴室近くでBGMにオルゴールを流しています。	入浴は基本週2~3回の午前の実施としている。脱衣室は冬はヒーターで室温を調整している。固形石鹸にこだわる利用者は家族に持参してもらっている。入浴を嫌がる利用者には、相性の良い職員を担当したり、時間を変更して対応している。同性介助を基本とし、異性介助が駄目の利用者は1人おり、同性で対応している。入浴中は羞恥心に配慮してバスタオルをかけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	安心して眠れるように、一人ひとり 昼夜逆転にならないように日中 は体操、軽レクをして夜間はよく 眠れる支援を行っています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	薬剤師による一包化で夜勤者が翌 日の薬を配薬しています。職員の 予約時のダブルチェックなどで、 誤薬防止に繋がっています。薬情 報は、個別にファイルして薬の変 更などは、居室担当者ファイリ ングし、職員が確認しやすい場 所に保管しています。	服薬支援マニュアルに基づいて、 薬剤師が一包化した薬を夜勤者 が翌1日分の薬として配薬し、管 理している。与薬時、「これから薬 の時間です」と本人、他の職員 に声掛けして復唱し、氏名や薬 の名前等の確認を行い、服薬後 の空袋は保管し、飲み忘れ等の 誤薬がないように努めている。職 員は薬効や副作用などについて 薬ファイルで情報を共有して、様 子に変化があった場合には訪問 看護師に相談し対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	調理の準備・古新聞紙ゴミ箱作り ・洗濯物等で一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割分担を与 えて協力関係を気付いています。又 、天気の良い日には当建物屋上 にて散歩しモノレールの行き来 をみて楽しんでます。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している	コロナも2類から5類に変更され、 時々近くは近くの公園へいき ティータイムを楽しんだり、以 前、利用者が住んでいた地域を ドライブしたり本人の希望を把握 して出かけられるように状況を鑑 みながら支援を行って行きます。	日常的な外出として、天気の良 い日には屋上で日光浴を行いなが らモノレールの往來を見て、モノ レールの車体面のカラフルなピ カチュー画等を楽しんでいる。ジ ューズ等が欲しいという利用者 には、1階の駐車場近くの自動 販売機を利用して支援をしてい る。コロナが5類に移行してから 、近くの公園に季節の花を見に 出かける時は全員が行けるよう 2回に分けて実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている	ご本人が欲しい物があれば、家 族さんに連絡して買ってきてもら っています。ご家族様の対応が 難しい方は、職員が購入してい ます。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 3月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より家族さんに電話をかけて欲しいと要望があれば、ホームの電話を利用しています。ご家族様から電話があれば、取次いでいます。又、家族によっては、手紙でやり取りしている方もいます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内・居室内の喚起は毎日行っている。又、食堂ホールには季節感が味わえるような飾りつけを職員と一緒に会話を楽しみながら行っています。	居心地のよい共用空間づくりとして、毎朝、戸を開け換気に配慮し、居間兼食堂は温湿度をエアコンや加湿器で調整されている。室内の明かりも適度な明るさとなっており、居心地良く過ごせる場所となっている。大きな日めくりカレンダーが車いすからも見やすい位置に掲示されている。玄関先に重要事項説明書や運営推進会議等のファイルが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様は、食堂ホールで過ごされる方が多いので気の合った方を隣同士にして会話を楽しんでいます。居室で過ごしている方は、職員が入って傾聴し安心した生活をできるように声掛けをしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室担当者が利用者の使い勝手に合わせてひきだしに表示をするなど、洋服・下着などが分かり易いように配慮しています。又、居室の入口ドアには、名前の表示と造花をあしらったプレートの表札が掛かり迷わずに自室へ戻れる工夫もしています。	居室入り口には、利用者の名前を造花で表示している。ベッド、エアコン、クローゼット、ナースコール、防災用カーテン、温湿度計が設置されている。使い慣れた馴染みの椅子やタンスを持参している利用者もいる。居室にはカレンダーや家族写真、ラジオ、時計などを持ち込んでいる。誕生日に送られた色紙が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路・トイレ・浴室等には手すりがついており安全に移動ができ自立した生活ができるようにしています。又、段差があるところはありません。		